

グリーン経営を基軸とした“人と環境にやさしい”市バス事業の持続・発展

【安全・快適で信頼性の高いサービスの提供】

乗客逸走率 0.4% 圧縮 = 10 年間で 271,534 千円の効果

- ア. 運輸安全マネジメントの徹底
- イ. ドライブレコーダーの全車両への設置
- ウ. エコドライブ、エコオフィスの取り組みの徹底
- エ. サービス介助士の増員（育成強化）  
お客様に、より快適で安心してご乗車いただけるよう、サービス介助士の資格を持つ乗務員の増員を図ります。
- オ. 利用しやすい路線・ダイヤの見直し  
お客様の乗車実態やご要望等を踏まえ、利便性の向上につながるよう路線やダイヤを見直します。
- カ. JR伊丹駅案内所設置の検討  
お客様への各種サービスの向上を図るため、主要ターミナルである JR 伊丹駅に総合案内所の設置を検討します。
- キ. 乗り継ぎ割引制度の見直し  
昼間時間帯の乗り継ぎ割引対象時間の延長や新たな割引設定など、お客様のニーズを踏まえた割引制度を検討します。
- ク. 新たな料金割引制度の検討  
特定の年齢層を対象とした料金割引制度や時間帯割引などを検討するとともに、ハウスカード利用に対する現行の割引制度についても再検討します。
- ケ. IC カードのフェリカポケット領域を活用したサービスの検討  
ハウスカード「itappy」を活用した公共施設、店舗との連携や情報累積機能を利用したサービスについて検討します。
- コ. 企画乗車券の開発・発売  
バス&ウォークといったコンセプトのもとに、市が進める「健康づくり大作戦」とも連携するような企画乗車券を開発、販売し顧客拡大に努めます。
- サ. バスロケーションシステム導入の検討
- シ. ホームページの充実（情報提供、検索機能の強化）
- ス. 大阪国際（伊丹）空港直便の運行
- セ. ノンステップバス（アイドリングストップ装置付）への車両更新
- ソ. 低公害車導入の検討
- タ. バス停施設の改修（快適でわかりやすいバス停づくり）
- チ. 定時性の確保（バス優先レーン、信号機等の規制要望）

【効率的な事業運営による経営基盤の強化】

車両更新計画の見直し = 10 年間で 189,767 千円の効果

経費の削減

- ア. 人件費の抑制  
労働効率向上のため、労働条件等を見直し、長期的、持続的に人件費の抑制を図ります。
- イ. 車両更新計画の見直し  
NOx・PM 法による使用年数制限の対象外車両が更新時期を迎える平成 25 年度以降について、車両の長期間使用を研究・検討し投資及び償却費用の抑制を図ります。
- ウ. 回数磁気カードの新規発行停止  
回数磁気カードの新規発行を停止し、IC カードへの移行を促進するとともに、管理コストの削減を図ります。
- エ. 貸切事業の見直し  
一般貸切事業から中型車両 3 両による特定路線貸切事業への転換を検討します。
- オ. エコドライブ、エコオフィスの取り組みの徹底 <再掲>

収入の確保

- ア. 市バスグッズの作成、販売
- イ. 遊休資産（土地）の活用
- ウ. 広告媒体としてバス停の活用（ネーミングライツ）を検討  
バス停標柱を活用した地域限定広告、バス停のネーミングライツ等を導入を検討し、新たな広告主のニーズに応え広告収入の増収を図ります。
- エ. ラッピングバスの増車推進及びラップを活用した PR・啓発を検討  
広告媒体としてラッピングバスの増車に努めるほか、環境や福祉をテーマに車体デザインを公募するなどの取り組みを検討します。
- オ. バス部品等のネットオークションでの販売を検討
- カ. 廃車車両のネットオークションでの売却を検討
- キ. 企業等へのバス利用促進活動の強化
- ク. モビリティ・マネジメント活動の強化

組織の活性化

- ア. 職員提案制度の充実と活用
- イ. サポートスタッフの活用
- ウ. 職員研修の充実（接遇、エコドライブ、交通安全）
- エ. 職員への環境教育の充実
- オ. 優良乗務員表彰制度の見直し

その他

- ア. 市バスモニター制度の充実と活用
- イ. 市バスに関するアンケート調査の実施